

地区の活性化に挑む“国見”

— 日本海と国見岳に抱かれて —

国見公民館

1 国見地区の概要



【地区の名所『ブルーシー鮎川』】

国見地区は福井市の西端に位置し、東は国見岳を隔てて本郷、安居地区に連なり、西は国道305号を挟んだ日本海に面している。海の穏やかな時節には漁火や夕日が絶景で、風光明媚な越前加賀国定公園に沿った自然に恵まれた海岸地帯である。また、南は海に沿って越廼地区菜崎町、蒲生町に連なっている。北は鷹巣地区を経て、三国町及び福井市中心部に通じている。

福井市の中心部からは約30km、公共バスで約50分の地にある。東西の距離は5.4km、南北は5.1kmあり、地区の自然地形により海岸に沿って集落が伸びており、交通機関も磯伝いに発達している。

昭和34年以前に丹生郡国見村であった国見、鮎川、白浜、大丹生、小丹生が、福井市に編入し、この5町で国見地区自治会連合会を形成している。

平成28年1月1日現在の世帯数は419戸、人口は1,105名（男493名・女612名）である。

2 公民館の活動

(1) 「源平ゆかりの地三地区」との交流

(石川県津幡町・長野県木曾町・市国見地区国見町)

1183年（約830年前）、倶利伽羅峠で源氏に敗れた平家は、加賀・越前の海岸に沿って敗走を続けた。

古来より国見地区は戦乱の余波もなく平和な集落であり、戦いに敗れた落人を受け入れ定住させた。この史実は、地域の人々の鷹揚な人間性を物語っている。



【830年の時を超えた三地区との交流】

国見地区は福井市の西端に位置し、東は国見岳を隔てて本郷、安居地区に連なり、西は国道305号を挟んだ日本海に面している。海の穏

やかな時節には漁火や夕日が絶景で、風光明媚な越前加賀国定公園に沿った自然に恵まれた海岸地帯である。また、南は海に沿って越廼地区菜崎町、蒲生町に連なっている。北は鷹巣地区を経て、三国町及び福井市中心部に通じている。

「源氏『木曾義仲』が育った地（木曾町）」と「『源平合戦』を繰り広げた地（津幡町）」、そして「平家が落ち延びた地（国見町）」の三地区が、数年前から交流会を行っている。

この交流会は三地区持ち回りで開催し、今年度が4回目である。古くには敵対する源氏と平家であったが、今では、悠久の縁あればこそその事業となっている。

今後はこの交流の中で、お互いの「まちづくり等」について歴史に沿ったテーマを決め、学ぶことにしている。

(2) 少年教育・郷土学習事業「ふるさと探訪」

平成5年より、小学3・4年生と中学2年生を対象に、国見地区内外の歴史探訪事業を行っている。小学生は、主に地区内の歴史旧跡を巡り、中学生は国見岳を中心に近隣地区の歴史にも触れながら、「ふるさと国見」の歴史を体感している。

事業終了後の児童生徒の感想文では、小学生は郷土を知る礎になり、中学生は悠久の歴史を体感できた様子が生き生きと書かれていた。将来を担う児童生徒が地域の歴史を継承し、見聞する大切さをこの事業から学んでいる。

【森本家にて源平合戦の説明】



(3) 青年教育事業

「国見地区『青和会』と中学生との語る会」

毎年、国見中学校の卒業式後に、「青和会」（22歳から40歳が会員）の役員が、卒業生に「激励」と「記念品」を贈呈する『青和会と中学生との語る会』を開催している。



【青和会会員から中学生へ記念品贈呈】

この事業は、多様な意見や考えに触れる機会が少ない中学生に対して、市内の高校に通ったり、地区外に転出したりしている諸先輩から激励をして貰っている。この事業が卒業生にとって、夢と希望に満ちたものになるよう、今後も継続していきたい。

(4) 子育て支援委員会「通学路一斉点検」事業

—共催「青少年育成福井市民会議国見支部」—

国見地区の通学路を自治会連合会が中心となり、毎年7月第1土曜日夕方に、各自治会代表者、公民館、小・中学校、両PTA、保育園、保護者会、実年会、老人会、育成会、駐在所等、各団体の代表者約60名で危険箇所がないか点検を継続している。危険箇所がある場合、その後の反省会議で点検項目ごとに協議し、善処する対策をとっている。

3 地区の事業

—「来て見て国見フェア」まちづくり支援事業—

(自治会連合会/小・中学校/公民館との連携)

当地区は、祖先の残した文化や行事、平和な伝統を誇りとした伝承行事が現在も受け継がれている。しかしながら、近年少子化・高齢化が著しく、地域の構造を抜本的に見直さねばならない課題に直面している。

このような状況の中、自治会連合会が主催する「国見地区まちづくり協議会『いきいき国見』」は、平成23年から「来て見て国見フェア」の一大イベントを開催している。

更に平成25年、市が推進する「まちづくり交歓会」をきっかけに、全員参加型の「地域づくり」の機運が高まり、大人に交じって国見小・



【名物「筏の瀬渡し」】

中学校の児童生徒が企画立案した事業を、ステージ上で披露し、多くの来場者の注目を集めている。

イベント当日は、小・中学生のボランティアを含め総勢130名で運営。その内容は海に関する体験（筏の瀬渡し・海女桶体験・魚の掴み取り体験・遊覧船etc）

と、地元で採れた食の出店が列を並べ、約3,000余名の来浜者で大盛況となっている。

地区住民で企画運営しているため、地域を盛り上げる意識を大いに発揮しながら様々なアイデアが出され、スタッフ全員が活気に満ちたイベントとなってきた。また近隣地区からの出店も増え、年々規模が大きくなってきている。

4 他地区との連携事業

—国見・殿下・越廼の三地区での「まちづくり」—

平成27年12月、越前海岸三地区（国見・殿下・越廼）が、国定公園である越前海岸の風土や、培われた地域と文化を生かして、住民主体のまちづくりを実現するため、「福井市西地区まちづくり協議会」を



【協定書に調印】

発足した。これは、三地区の住民の参画と協働により、「まちづくり」の発展に寄与することを目指しており、自治会連合会長3名の連署で協定書に調印した。今後、公民館も諸団体と連携しながら、積極的に推進していきたいと考えている。

5 終わりに

地区の過疎化は将来を不安視するだけでなく、長い歴史の流れの中で、先人が残した尊い文化や遺産を継承しつつ、解決策に向けて発想を転換し、新しい方向性を目指すべきである。

幸い地区の事業の中には、5町内全住民の協力と団結力にて推し進められている事業が数多くある。

公民館は生涯学習の場のみならず、地域コミュニティの場としての役割を認識し、地区に根差した公民館事業を展開して地域の中での繋がりと、次代に新たな可能性が生まれるよう、日々努力しなければならない。

源平合戦の様々な史実の中でも、当時の住民が平家の落人を定住させた内容は、地域性を的確に物語っており、感慨深く感じます。このような歴史や文化に誇りと自信をもちながら、地域の活性化に向けて、新しい方式で取り組んでいくことを期待しています。